

第8回新潟活性化サロン テーマ「新潟県におけるインバウンド推進について」

- ◇ 令和元年5月14日開催
- ◇ ゲストスピーカー 野上 文敏 新潟県観光局国際観光推進課長

「新潟県の国際観光戦略について」発表概要

1. 新潟県内 外国人延べ宿泊者数の状況

- ・ 平成30年の外国人宿泊者数は延べ36.8万人泊(対前年比16.7%増)と過去最高を記録。特に中国、香港からの誘客では、全国1位、2位の伸び率。十日町市、津南町を舞台に3年に1度開催される「越後妻有大地の芸術祭」の効果もあり、グリーンシーズン(4~11月)の伸び率が42.7%(全国3位)と大きく増加。
- ・ 国(地域)別シェアで見ると、台湾(21.8%)、中国(16.7%)、香港(8.1%)、韓国(5.8%)となっており、新潟空港からの直行便を運航している先(香港除く)が上位という特徴。

2. インバウンドの誘客促進

- ・ 東南アジアにおける訪日市場の開拓に向け、マレーシア、インドネシア、ベトナム及びフィリピンをターゲットにセールス・旅行博出展やムスリムセミナーの開催のほか、官民一体によるプロモーション促進、埼玉県、群馬県との三県連携の枠組みでラグビーワールドカップにあわせた首都圏滞在在外国人旅行者への情報発信を新たに実施。
- ・ 「スノーリゾート新潟」PR動画の作成・発信やグリーンシーズンの体験型コンテンツの開発・商品化、宿泊施設等のキャッシュレス化等の促進を拡充するとともに、二次交通の整備や多言語対応など地域主体による受入体制の整備促進、他県等との広域観光連携の推進、LCCを含めた新規の国際路線の開拓・クルーズ船の誘致を継続して実施。
- ・ 2020年東京オリンピック・パラリンピックを見据え、首都圏長期滞在外国人旅行者に向け、新潟の情報を触れてもらう機会を増やすための取組みが必要。SNS等を活用した電子媒体による情報発信だけではなく、外国人宿泊者が長期滞在する宿泊施設に紙媒体で直接提供する仕組みを検討。
- ・ また、市町村と連携したインバウンドの誘客促進として、外国人観光客受入体制整備事業支援補助金等の支援メニューを用意。

3. 海外から「訪れてよしの新潟県」

- ・ 海外からのコーディネーターの声として、中国ではスキー、台湾では「越後妻有大地の芸術祭」、食に関しては安定的に評価を得ている。香港では「新潟のグルメの魅力をアピールできるのでは」という声に当県農林水産部とPRに力を入れているところ。タイでは写真映えするスポットに行き、友達・家族等に自慢する傾向があるため、当県のホームページやSNS、旅行コーディネーター自体のSNSを通じて爆発的にヒットすることを狙っている。
- ・ 海外エージェンツの声としては、いわゆるゴールデンルート(東京・大阪)が飽和状態のなか、新しい目的地として「新潟」が注目されている一方、東京から新潟までの移動コストがネックとなっている。外国人からみると値段が同じであれば、他の海外に選択肢がたくさんあることから、当県としても旅行会社と連携して新潟を知ってもらうためのPRをしていかなければ、外国人観光客を呼び込むことはできない。
- ・ 外国人に人気のあるスキーツアー、新潟から佐渡(たらい舟、佐渡金山等)の周遊等に加え、今年度は体験型旅行商品の造成や「スノーリゾート新潟」の定着・拡大に向け、スキー動画の作成、スキークラブへのアプローチを重点的に取り組んでいく。